

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年11月13日
【四半期会計期間】	第52期第2四半期（自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日）
【会社名】	株式会社ダスキン
【英訳名】	DUSKIN CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 山村 輝 治
【本店の所在の場所】	大阪府吹田市豊津町1番33号
【電話番号】	06(6387)3411(大代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役 鶴見 明 久
【最寄りの連絡場所】	大阪府吹田市豊津町1番33号
【電話番号】	06(6387)3411(大代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役 鶴見 明 久
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第51期 第2四半期連結 累計期間	第52期 第2四半期連結 累計期間	第51期
会計期間	自平成24年4月1日 至平成24年9月30日	自平成25年4月1日 至平成25年9月30日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
売上高(百万円)	82,088	83,310	168,163
経常利益(百万円)	5,746	5,327	11,027
四半期(当期)純利益(百万円)	2,967	3,059	6,092
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	2,649	4,013	9,095
純資産額(百万円)	149,667	154,640	152,811
総資産額(百万円)	196,094	201,860	202,375
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	46.17	48.72	95.15
潜在株式調整後1株当たり四半期(当 期)純利益金額(円)			
自己資本比率(%)	75.9	76.1	75.1
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	5,998	4,474	16,269
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	2,530	2,337	6,864
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	2,628	2,241	5,980
現金及び現金同等物の四半期末(期 末)残高(百万円)	25,567	28,097	28,171

回次	第51期 第2四半期連結 会計期間	第52期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成24年7月1日 至平成24年9月30日	自平成25年7月1日 至平成25年9月30日
1株当たり四半期純利益金額(円)	31.42	30.51

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。なお、ダスキン共益株式会社は、第1四半期連結会計期間においてダスキン保険サービス株式会社を吸収合併いたしました。また、エムディフード株式会社を、第1四半期連結会計期間において設立いたしました。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1)業績の状況

当第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日～平成25年9月30日）の我が国経済は、円安や政府による経済政策の効果等により企業収益に改善が見られる等、全体としては回復基調で推移しました。その一方で、原材料価格の高騰や海外景気の減速等の下振れリスクも抱え、先行きは不透明な状況が続いております。

このような環境の中で、創業50周年を迎えた当社は、期初より、これまでの感謝を込めた謝恩活動をフランチャイズ加盟店と一丸となって展開すると共に、“仕組みの改革”を推し進めており、一人でも多くの方に、当社の商品・サービスをご利用いただくべく、中期経営方針の基本方針に沿った取り組みを継続しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の連結売上高は、833億10百万円（前年同期比1.5%増）となりました。一方、フードグループが大幅な減益となり営業損失を計上したことで連結営業利益は減少し、43億51百万円（前年同期比8.4%減）となりました。それに伴い、連結経常利益も53億27百万円（前年同期比7.3%減）と減益となりましたが、連結四半期純利益は、前年同期にあった投資有価証券評価損の計上が無くなったことを主因として増益となり、30億59百万円（前年同期比3.1%増）となりました。

<セグメント毎の状況>

(a)クリーンケアグループ

清掃関連用具のレンタルや清掃美化関連のサービスを手掛けるクリーン・ケア事業は、家庭市場において、全国各地のショッピングセンター等で、「オタメシ祭り」を多数開催しました。これは、普段ご自宅でなかなかお会いできない方に対して、お出掛けの場で当社商品を紹介し、実際に触って使って見ていただいて、ホコリの取れ方や使い勝手等を体感していただくという催しで、従来商品より高機能でスタイリッシュなフロアモップ「LaLa」、ハンディモップ「shushu」、集めたゴミやホコリを吸い取る置き型式掃除機「ダストクリーナー」の3点を組み合わせた“お手軽本格おそうじ”を訴求しました。それら3点のレンタル売上は順調に増加したものの、それ以外のモップ商品売上は減少し、家庭用ダストコントロール商品全体では、前年同期並みの売上に留まりました。エアコンクリーニング、台所や洗面所等の水周りクリーニング、家事おてつだいサービス等が順調に推移した家庭向け役務提供サービスと併せた家庭市場合計の売上は、前年同期を上回る結果となりました。

一方、事業所市場は引き続き厳しい状況が続きました。清掃用具レンタルに清掃サービスや害虫駆除、衛生管理サービス等を加えたオーダーメイドの総合提案を繰り返し行う地道な営業活動に引き続き注力しましたが、ダストコントロール商品の売上が減少したことを主因に、前年同期の売上を下回る結果となりました。その中では、害虫駆除サービス等が順調に推移した事業所市場向け役務提供サービスは、前年同期の売上を上回りました。

以上に、介護用品レンタル、イベント受注が依然として好調に推移したレントオール事業及びその他の事業を加えたクリーンケアグループ全体の売上高は550億23百万円（前年同期比1.5%増）となりました。営業利益は、創業50周年謝恩活動により販売促進費用は増加したものの、一部の費用の使用時期が下半期にずれ込んだこと等により、75億12百万円（前年同期比2.7%増）となりました。

(b)フードグループ

ミスタードーナツ事業は、ブランド価値の向上を図ることに集中して取り組み、前年同期の売上を上回りました。とりわけ、味・おいしさの追求に注力し、まず4月には、今まで以上に風味を高めるオイル、ドーナツをコーティングするグレーズ(砂糖蜜)を開発・導入し、併せて「オールドファッション」等の人気ドーナツの生地をリニューアルした「TRY! NEW MISDO!」と題したプロモーションを実施しました。9月には、豆の品質・焙煎方法にこだわり、よりおいしくなった「ミストオリジナルローストコーヒー」を発売しました。更に、商品展開においては、6月の「ぶるんボン・デ・リング」、8月の「マロンドーナツ」等、季節感溢れる商品を継続的に展開しながら、カルピス株式会社との「カルピス®ドーナツ」、ハウス食品株式会社との「家族のカレーパン」等、有名企業とのコラボレーションで話題性を喚起する取り組みも行いました。また9月には、ドーナツの新たな食べ方を提案する商品として、6種の一口サイズドーナツを専用容器に詰め大人数で楽しんでいただく「ミストピッツ」を発売し、大変好評を得ております。

以上に、前期7月より連結を開始した蜂屋乳業株式会社及びその他のフード事業を加えたフードグループ全体の売上高は229億99百万円(前年同期比1.0%増)となりました。一方、営業利益は、小麦等原材料価格高騰の影響に加え、「TRY! NEW MISDO!」による宣伝広告費の増加等により、1億44百万円の営業損失(前年同期は営業利益4億78百万円)となりました。

(c)その他

海外のミスタードーナツ事業は、タイ、フィリピン、マレーシアは好調に推移したものの、台湾、中国(上海)、韓国は、不採算店をクローズし店舗数が減少したこと等により前年同期の売上を下回った結果、海外のミスタードーナツ事業合計の売上は前年同期から微減しました。

海外のクリーン・ケア事業は、展開している台湾、中国(上海)、韓国の3ヵ国全てで前年同期の売上を上回りました。台湾では、ダストコントロール事業との相乗効果により、役務提供サービスが順調に推移し、また中国(上海)、韓国では、家庭市場のお客様開拓に注力した結果、売上は前年同期を上回りました。

以上に、リース事業等を営むダスキン共益株式会社等の関係会社を加えた、その他全体の売上高は52億86百万円(前年同期比3.2%増)、営業利益は2億9百万円(前年同期比3.2%減)となりました。

なお、上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2)キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」)は、前連結会計年度末から73百万円減少し280億97百万円となりました。各々のキャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、44億74百万円の資金収入(前年同四半期比15億24百万円減)となりました。その要因は、税金等調整前四半期純利益が52億33百万円(同2億83百万円減)、減価償却費が34億85百万円(同4百万円減)あったことに対し、法人税等の支払額が22億55百万円(同2億45百万円増)あったこと等であります。

投資活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、23億37百万円の資金支出(同1億92百万円減)となりました。その要因は、有価証券及び投資有価証券の取得による支出が40億2百万円(同20億円減)及び有形固定資産の取得による支出が21億15百万円(同15億47百万円減)あったことに対し、有価証券及び投資有価証券の売却及び償還による収入が35億円(同64億16百万円減)あったこと等であります。

財務活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、22億41百万円の資金支出(同3億86百万円減)となりました。その要因は、配当金の支払額が12億67百万円(同12億97百万円減)あったこと等であります。

(3)事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、4億31百万円であります。
なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 主要な設備

当第2四半期連結累計期間において、新たに確定した主要な設備の新設、大規模改修計画は次のとおりであります。

大規模改修
提出会社

事業所名	所在地	セグメントの名称	設備の内容	投資予定金額(百万円)		資金調達方法	着手及び完了予定年月		完成後の増加能力
				総額	既支払額		着手	完了	
ミスタードーナツカレッジ	大阪府吹田市	フードグループ	教育研修設備	610	-	自己資金	平成25年11月	平成26年10月	(注)1

(注) 1. 販売又は生産能力に重要な影響はありません。
2. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

新設
国内子会社

会社名	所在地	セグメントの名称	設備の内容	投資予定金額(百万円)		資金調達方法	着手及び完了予定年月		完成後の増加能力
				総額	既支払額		着手	完了	
共和化粧品工業(株)	大阪府八尾市	クリーンケアグループ	化粧品製造設備	526	4	自己資金	平成25年11月	平成26年10月	生産能力向上

(注) 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	200,000,000
計	200,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在 発行数(株) (平成25年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年11月13日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	64,994,823	64,994,823	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	64,994,823	64,994,823		

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年7月1日～ 平成25年9月30日		64,994,823		11,352		1,090

(6)【大株主の状況】

平成25年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
三井物産株式会社	東京都千代田区大手町1丁目2番1号	2,800	4.30
ダスキン働きさん持株会	大阪府吹田市豊津町1番33号	2,075	3.19
日本製粉株式会社	東京都渋谷区千駄ヶ谷5丁目27番5号	2,000	3.07
小笠原 浩方	京都府京田辺市	1,892	2.91
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	1,755	2.70
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	1,418	2.18
STATE STREET B ANK AND TRUST COMPANY	P.O.BOX351 BOSTON M ASSACHUSETTS 02101 U.S.A.	1,202	1.84
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1番2号	1,200	1.84
日本水産株式会社	東京都千代田区大手町2丁目6番2号	1,125	1.73
株式会社モスフードサービス	東京都品川区大崎2丁目1番1号	1,051	1.61
計	-	16,519	25.41

(注)1. 当社は、自己株式を2,414,752株所有しておりますが、上記大株主からは除外しております。

2. 上記表中の は、すべて信託業務に係る株式数であります。

(7)【議決権の状況】
【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,414,700		
完全議決権株式(その他)	普通株式 62,500,800	625,008	
単元未満株式	普通株式 79,323		
発行済株式総数	64,994,823		
総株主の議決権		625,008	

【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数(株)	他人名義 所有株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ダスキン	大阪府吹田市豊津町 1番33号	2,414,700		2,414,700	3.71
計		2,414,700		2,414,700	3.71

2【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間において、役員の異動はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	19,255	21,323
受取手形及び売掛金	10,366	10,105
リース投資資産	1,782	1,649
有価証券	13,998	7,799
商品及び製品	6,203	7,322
仕掛品	175	154
原材料及び貯蔵品	2,133	2,124
繰延税金資産	2,609	2,513
その他	2,684	2,798
貸倒引当金	46	49
流動資産合計	59,162	55,743
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	42,138	41,300
減価償却累計額	24,262	23,804
建物及び構築物(純額)	17,876	17,495
機械装置及び運搬具	23,624	23,519
減価償却累計額	17,247	17,262
機械装置及び運搬具(純額)	6,376	6,256
土地	24,231	24,198
建設仮勘定	279	981
その他	13,683	13,099
減価償却累計額	9,328	9,319
その他(純額)	4,355	3,780
有形固定資産合計	53,120	52,712
無形固定資産		
のれん	688	666
その他	7,788	7,133
無形固定資産合計	8,477	7,799
投資その他の資産		
投資有価証券	67,684	72,448
長期貸付金	108	27
繰延税金資産	5,147	4,737
差入保証金	7,498	7,369
その他	1,385	1,232
貸倒引当金	209	210
投資その他の資産合計	81,614	85,604
固定資産合計	143,212	146,117
資産合計	202,375	201,860

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	6,975	6,588
1年内返済予定の長期借入金	99	99
未払法人税等	2,066	1,911
賞与引当金	3,362	3,065
ポイント引当金	1,292	1,212
資産除去債務	2	9
未払金	6,229	5,091
レンタル品預り保証金	10,326	10,275
その他	4,443	3,779
流動負債合計	34,798	32,034
固定負債		
長期借入金	89	38
退職給付引当金	13,284	13,782
債務保証損失引当金	11	3
資産除去債務	592	582
長期預り保証金	748	741
長期未払金	37	37
その他	0	0
固定負債合計	14,764	15,185
負債合計	49,563	47,219
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,352	11,352
資本剰余金	10,841	10,841
利益剰余金	132,222	134,019
自己株式	3,092	3,999
株主資本合計	151,323	152,214
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	943	1,780
繰延ヘッジ損益	3	-
為替換算調整勘定	371	314
その他の包括利益累計額合計	568	1,466
少数株主持分	919	959
純資産合計	152,811	154,640
負債純資産合計	202,375	201,860

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	82,088	83,310
売上原価	45,926	46,874
売上総利益	36,162	36,436
販売費及び一般管理費	31,411	32,084
営業利益	4,751	4,351
営業外収益		
受取利息	470	487
受取配当金	142	136
設備賃貸料	58	58
受取手数料	146	128
営業権譲渡益	131	11
雑収入	253	312
営業外収益合計	1,202	1,136
営業外費用		
支払利息	2	1
為替差損	34	-
持分法による投資損失	31	63
支払補償費	46	47
賃貸借契約解約損	24	0
雑損失	66	46
営業外費用合計	206	160
経常利益	5,746	5,327
特別利益		
固定資産売却益	0	1
投資有価証券売却及び償還益	939	-
その他	8	2
特別利益合計	948	3
特別損失		
固定資産売却損	3	2
固定資産廃棄損	67	28
減損損失	67	64
投資有価証券評価損	1,030	-
その他	9	3
特別損失合計	1,178	97
税金等調整前四半期純利益	5,517	5,233
法人税等	2,515	2,139
少数株主損益調整前四半期純利益	3,002	3,093
少数株主利益	34	34
四半期純利益	2,967	3,059

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	3,002	3,093
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	375	834
繰延ヘッジ損益	9	0
為替換算調整勘定	19	53
持分法適用会社に対する持分相当額	12	32
その他の包括利益合計	352	919
四半期包括利益	2,649	4,013
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,607	3,957
少数株主に係る四半期包括利益	42	56

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	5,517	5,233
減価償却費	3,490	3,485
のれん償却額	75	115
貸倒引当金の増減額(は減少)	10	5
貸倒損失	1	-
受取利息及び受取配当金	613	624
支払利息	2	1
為替差損益(は益)	0	1
持分法による投資損益(は益)	31	63
有形固定資産売却損益(は益)	2	0
有形固定資産除却損	94	45
投資有価証券売却及び償還損益(は益)	939	-
投資有価証券評価損益(は益)	1,030	-
営業権譲渡損益(は益)	130	11
減損損失	67	64
売上債権の増減額(は増加)	529	281
たな卸資産の増減額(は増加)	919	1,082
仕入債務の増減額(は減少)	191	395
賞与引当金の増減額(は減少)	352	297
ポイント引当金の増減額(は減少)	15	79
退職給付引当金の増減額(は減少)	670	497
債務保証損失引当金の増減額(は減少)	18	8
未払消費税等の増減額(は減少)	147	11
リース投資資産の増減額(は増加)	25	132
その他の資産の増減額(は増加)	139	241
その他の負債の増減額(は減少)	1,696	1,685
小計	7,273	5,994
利息及び配当金の受取額	737	737
利息の支払額	2	1
法人税等の支払額	2,010	2,255
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,998	4,474

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額（は増加）	1,099	1,086
有価証券の取得による支出	2,000	-
有価証券の売却及び償還による収入	4,104	3,000
有形固定資産の取得による支出	3,663	2,115
有形固定資産の売却による収入	23	119
投資有価証券の取得による支出	4,002	4,002
投資有価証券の売却及び償還による収入	5,812	500
関係会社株式の取得による支出	-	126
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	859	-
貸付けによる支出	178	1
貸付金の回収による収入	233	106
敷金及び保証金の差入による支出	116	54
敷金及び保証金の回収による収入	143	64
営業譲受による支出	-	167
営業権譲渡による収入	130	11
その他の支出	1,069	832
その他の収入	12	73
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,530	2,337
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	48	50
自己株式の取得による支出	0	906
配当金の支払額	2,564	1,267
少数株主への配当金の支払額	14	16
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,628	2,241
現金及び現金同等物に係る換算差額	4	31
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	843	73
現金及び現金同等物の期首残高	24,724	28,171
現金及び現金同等物の四半期末残高	25,567	28,097

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

連結の範囲の重要な変更

連結子会社であったダスキン保険サービス株式会社は、第1四半期連結会計期間においてダスキン共益株式会社に吸収合併されたため、連結の範囲から除外しております。

エムディフード株式会社を、第1四半期連結会計期間において新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

連結子会社の税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

偶発債務

連結会社以外の会社の金融機関からの借入に対して、債務保証又は経営指導念書の差入れを行っております。

(債務保証)

前連結会計年度 (平成25年3月31日)		当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)	
ミスタードーナツ加盟店 (事業者融資保証)		ミスタードーナツ加盟店 (事業者融資保証)	
(株)安住商会	25百万円	(株)安住商会	22百万円
(株)松屋	23	(株)松屋	20
アルファフーズ(株)	22	アルファフーズ(株)	19
その他	20件 57	その他	13件 17
協力工場 (協栄工場融資保証)		協力工場 (協栄工場融資保証)	
(株)アイエムコーポレーション	62	(株)アイエムコーポレーション	56
(株)アズミ	21	(株)アズミ	18
太洋ドライクリーニング(株)	4	(株)北越ダスキン協栄工場	2
(株)北越ダスキン協栄工場	3	(株)太洋	2
当社従業員 (厚生貸付保証)	65件 67	当社従業員 (厚生貸付保証)	55件 64
計	287	計	224

(経営指導念書)

前連結会計年度 (平成25年3月31日)		当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)	
統一多拿滋(上海)食品有限公司	71百万円	統一多拿滋(上海)食品有限公司	116百万円

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
減価償却費	2,235百万円	2,364百万円
賞与	2,584	2,549
退職給付費用	1,288	1,138
給与手当	6,964	6,918
販売手数料	739	808
のれんの償却額	75	115

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
現金及び預金勘定	16,547百万円	21,323百万円
有価証券勘定	14,065	7,799
計	30,612	29,123
償還期限が3ヶ月を超える有価証券	3,067	-
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	1,977	1,025
現金及び現金同等物	25,567	28,097

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月22日 定時株主総会	普通株式	2,571	40	平成24年3月31日	平成24年6月25日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間
末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年10月31日 取締役会	普通株式	1,285	20	平成24年9月30日	平成24年12月3日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月21日 定時株主総会	普通株式	1,261	20	平成25年3月31日	平成25年6月24日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間
末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年10月31日 取締役会	普通株式	2,503	40	平成25年9月30日	平成25年12月3日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	クリーンケア グループ	フード グループ	その他 (注1)	計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高						
外部顧客への売上高	54,194	22,769	5,124	82,088		82,088
セグメント間の内部売上高 又は振替高	482	7	1,213	1,702	1,702	
計	54,677	22,776	6,337	83,791	1,702	82,088
セグメント利益	7,317	478	216	8,012	3,261	4,751

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、病院のマネジメントサービス、事務用機器及び車両のリース、保険代理業及び海外事業等を含んでおります。
2. セグメント利益の調整額 3,261百万円には、セグメント間取引消去 8百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用 3,253百万円が含まれております。
3. セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「フードグループ」セグメントにおいて、平成24年5月に蜂屋乳業株式会社を子会社化したことに伴い、当第2四半期連結累計期間では404百万円のものれんが発生しております。

なお、のれんの当第2四半期連結累計期間の償却額及び当第2四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

(単位:百万円)

	クリーンケア グループ	フード グループ	その他	全社・消去	合計
当第2四半期連結累計期間償却額	54	20			75
当第2四半期連結会計期間末残高(注)	176	384			560

- (注) 当第2四半期連結会計期間末残高の主な内容は、平成24年5月に取得した蜂屋乳業株式会社ののれん残高384百万円(フードグループ)、平成20年7月に取得した株式会社アミ・コーポレーション(現在は株式会社ダスキンサーヴ東北と統合)のものれん残高46百万円(クリーンケアグループ)と当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したものれん残高101百万円(クリーンケアグループ)等であります。

(重要な負のものれん発生益)

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	クリーンケア グループ	フード グループ	その他 (注1)	計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高						
外部顧客への売上高	55,023	22,999	5,286	83,310		83,310
セグメント間の内部売上高 又は振替高	480	4	1,355	1,840	1,840	
計	55,503	23,004	6,642	85,150	1,840	83,310
セグメント利益又は損失 ()	7,512	144	209	7,578	3,227	4,351

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、事務用機器及び車両のリース、保険代理業、病院のマネジメントサービス及び海外事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失()の調整額 3,227百万円には、セグメント間取引消去 0百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用 3,227百万円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失()は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

当第2四半期連結累計期間において、のれんの金額に重要な影響を及ぼす事象はありません。

なお、のれんの当第2四半期連結累計期間の償却額及び当第2四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

(単位: 百万円)

	クリーンケア グループ	フード グループ	その他	全社・消去	合計
当第2四半期連結累計期間償却額	74	41			115
当第2四半期連結会計期間末残高(注)	354	311			666

(注) 当第2四半期連結会計期間末残高の主な内容は、当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高340百万円(クリーンケアグループ)と平成24年5月に取得した蜂屋乳業株式会社ののれん残高303百万円(フードグループ)等であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

共通支配下の取引等

(エムディフード株式会社への会社分割)

1. 取引の概要

(1) 対象となった事業の名称及びその事業の内容

事業の名称	フードグループのミスタードーナツ事業(直営ショップ19店)
事業の内容	ドーナツ・飲茶等の販売

(2) 企業結合日

平成25年7月1日

(3) 企業結合の法的形式

当社を分割会社、エムディフード株式会社(当社の連結子会社)を承継会社とする会社分割

(4) 結合後企業の名称

エムディフード株式会社(当社の連結子会社)

(5) その他取引の概要に関する事項

フードグループの中核であるミスタードーナツ事業における当社直営ショップについて、一部の直営ショップの役割・機能を見直し、当社から会社分割した上で連結子会社に承継させるものです。

承継を受けた連結子会社が運営する“子会社ショップ”は、それぞれの地域に根差した自立したショップ運営を行い業績に貢献すると共に、それを通じてフランチャイズ加盟店のモデルとなることを担うこととなり、“直営ショップ”は、加盟店指導を行うための人材育成及び新商品の販売テストや全国販売に至るまでのオペレーション等の検証を行い課題解決に特化する等の役割を担うこととなります。

2. 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成20年12月26日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日)に基づき、共通支配下の取引として処理しております。

(楽清香港有限公司への現物出資)

1. 取引の概要

(1) 結合当事企業の名称及びその事業の内容

株式会社ダスキン	清掃用資器材の賃貸等
楽清香港有限公司	投資並びに原材料及び資器材の調達

(2) 企業結合日

平成25年7月1日

(3) 企業結合の法的形式

当社が子会社株式を楽清香港有限公司(当社の連結子会社)へ現物出資

(4) その他取引の概要に関する事項

当社は、海外事業における投資機能・原材料及び資器材の調達機能を楽清香港有限公司へ集約化する一環として、当社が保有するMISTER DONUT KOREA CO.,LTD.(当社の連結子会社)の株式を、楽清香港有限公司に現物出資いたしました。

2. 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成20年12月26日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日)に基づき、共通支配下の取引として処理しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	46円17銭	48円72銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	2,967	3,059
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	2,967	3,059
普通株式の期中平均株式数(千株)	64,285	62,794

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成25年10月31日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 配当金の総額.....2,503百万円

(ロ) 1株当たりの金額.....40円

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....平成25年12月3日

(注) 平成25年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年11月13日

株式会社ダスキン

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 伊藤 嘉章

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 神前 泰洋

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ダスキンの平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ダスキン及び連結子会社の平成25年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。